

大学の世界展開力強化事業（令和6年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	山形大学		
主な交流先	ドイツ, イタリア, スペイン, ブルガリア, ルーマニア		
事業名	【和文】	スマート農林業のためのダブルディグリープログラム網の構築	
	【英文】	Network of double-degree programs for smart agriculture and forestry	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	村山 秀樹	(所属・職名) 副学長 (国際交流担当)
	(交替年月日)		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名
		(日本語表記)	(英語表記)
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用			

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

実渡航での派遣者数については、当初の計画を上回る数を実現した。オンラインにおける交流は2024年度は準備が間に合わず目標未達ではあったものの、2025年度からは学内におけるオンラインコンテンツの収録・配信やJV-Campusの利用促進など、着実に準備を進めている。

【特に優れた取組】

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

実渡航による受入人数についても派遣同様に当初の計画を上回る人数で実現した。ダブルディグリープログラム参加学生の受入、ウィンタースクールによる学生受入に加え、令和6年度の予算の追加交付により、2025年3月に実施した本事業の国際シンポジウムにおいて実渡航による学生受入を6名実現した。オンラインにおける交流については派遣同様、2024年度は準備が間に合わず目標未達ではあったものの、2025年度からは学内におけるオンラインコンテンツの収録・配信やJV-Campusの利用促進など、着実に準備を進めている。

【特に優れた取組】

(2) 任意指標

① 本事業で設定している任意指標

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1) ダブルディグリープログラムの実施数	2	2	3	4	6
(指標2) 国際学術雑誌への査読付き原著論文の掲載数	60	65	70	75	80
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2024年度末における目標の達成状況

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1) ダブルディグリープログラムの実施数	2				
(指標2) 国際学術雑誌への査読付き原著論文の掲載数	82				
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

指標1については、当初の計画どおりイタリア、トリノ大学とのダブルディグリープログラムを開始した。加えてスペイン、東欧2国（ブルガリア、ルーマニア）を教職員が訪問し、各海外協力大学とダブルディグリープログラムの構築に向けた話し合いをおこなった。

指標2については、お互いの研究内容を知るために相手国大学の教員・学生との交流イベントを開催した他、ダブルディグリープログラム参加学生に対して論文投稿・出版にかかる費用のサポートを行っている。

【特に優れた取組】

指標1に関連して、当初の計画にないポーランドの大学とのダブルディグリープログラム構築に向けた話し合いも開始した。これが実現すれば、東欧におけるダブルディグリープログラムのネットワーク充実につながる。

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	1	1	2	1	3	2	5	5	6

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：山形大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
トリノ大学 (ダブルディグリープログラム)	認定者数	B(大学院生)	0	4	4	4	4
	認定単位数	B(大学院生)	0	64	64	64	64
リエイダ大学 (ダブルディグリープログラム)	認定者数	B(大学院生)	0	0	0	4	4
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0	64	64
トラキア大学、プロヴディフ農業大学、ブカレスト農学獣医学大学 (ダブルディグリープログラム)	認定者数	B(大学院生)	0	0	0	0	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0	0	16
年度別認定者数合計			0	4	4	8	9
年度別認定単位数合計			0	64	64	128	144

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：山形大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
トリノ大学 (ダブルディグリープログラム)	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
リエイダ大学 (ダブルディグリープログラム)	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
トラキア大学、プロヴディフ農業大学、ブカレスト農学獣医学大学 (ダブルディグリープログラム)	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和6年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	筑波大学			
主な交流先	フランス、ドイツ、ベルギー、オランダ			
事業名	【和文】	「ナノ・量子・情報・生命分野融合の国際連携教育プログラム」		
	【英文】	International Cooperative Education Program with EU Universities for Interdisciplinary Fields of Nano-, Quantum-, Information-, and Bio- Technologies"		
事業責任者 <small>※交替年月日は変更があった場合のみ記入</small>	(氏名)	加藤 光保	(所属・職名)	副学長・理事（教育担当）
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 <small>※追加調査を提出した大学のみ記入</small>	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1	ボルドー大学	University of Bordeaux	フランス
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://eu-interuniv.pas.tsukuba.ac.jp/>

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

実渡航に関しては、目標を上回る人数の学生を派遣することができ、本プログラムの運営主体である数理工学、システム情報工学、生命地球科学の3研究群から、それぞれ渡航者があった。一方で、オンライン交流については開催時期が遅れたこともあり、当初の計画通りには実施できなかった。

令和7年度は、各連携大学とのオンラインプログラムの企画・実施に注力し、学部生および修士課程の学生を対象とした、より幅広い留学促進活動を展開していく予定である。あわせて、特別講義やセミナーなど、国内での国際交流活動についても、JV-Campusなどのプラットフォームを活用しながら積極的に進めていきたい。

【特に優れた取組】

本プログラムの採択と同時期に開始された、情報分野におけるグローバル・アルプ大学とのダブル・ディグリー・プログラム（DDP）において、初年度の派遣学生として筑波大学から2名を選抜・派遣した。

また、本プログラム開始前からの派遣学生になるが、2024年度にグローバル大との修士課程ダブルディグリーを修了した学生2名が博士課程に進学し、1名は2025年度よりグローバル大との博士課程ダブルディグリープログラムに参加予定であり、もう1名は海外大学の博士課程に進学を決めるなど、修士課程の海外経験がその後の国際的な学修に繋がる事例が得られている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

グローバル・アルプ大学については、受入学生数がパンデミック以前の水準に戻ったこともあり、目標を超える学生を受け入れることができた。今後は、グローバル・アルプ大学以外の大学や、これまでとは異なる分野の学生の受入数も増加させたい。

【特に優れた取組】

グローバル・アルプ大学は本プログラム発足前からの連携をより強化することができ、教員や学生への働きかけが多く行われ、実渡航者の増加につながった。

(2) 任意指標

① 本事業で設定している任意指標

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1) DDP参加学生数	8	12	14	18	18
(指標2) 分野別履修コース参加学生数	0	8	15	19	19
(指標3) 学際履修コースの参加学生数	0	2	4	5	5
(指標4) 博士課程への内部進学率	13%	13%	14%	15%	16%
(指標5)					

② 2024年度末における目標の達成状況

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1)	3				
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

初年度は、事務局およびプログラム運営・実行委員会の設立をはじめとする運営体制の整備に努め、プログラム参加学生に対する支援体制の構築に注力した。また、グローバル・アルプ大学を中心に、筑波大学における特別講義の開講や、教職員の出張による交流先大学との連携強化が図られ、国際的な教育・研究協力の基盤が着実に整備された。学生の派遣・受入については、全体としては目標値に達していないが、従来より本学との交流が活発な大学・分野において、目標を上回る実渡航者が確認された。一方で、質保証の観点から、学内および交流先大学との間での受入・派遣体制やプログラム内容の整備を優先した結果、オンライン交流の実施には遅れが生じた。今後は、初年度に構築した運営・支援体制を基盤として、学生の多様なニーズに対応した渡航・受入の促進を図るとともに、遅れていたオンライン交流プログラムについても計画的に実施していく。特に、学部生・修士学生を対象とした留学促進イベント、海外特別講義やオンラインセミナーの実施を通じて、より幅広い層への国際交流機会の提供を目指す。また、JV-Campus等のオンライン教育基盤を積極的に活用し、国内における国際教育活動のさらなる展開も図る予定である。

【特に優れた取組】

12月および3月に、それぞれグローバル・アルプ大学およびユトレヒト大学から教員を招聘し、本学において特別講義を開講した。これにより、学生に対して専門的かつ国際的な教育機会を提供する体制を強化した。また、プログラム公式ウェブサイトにおいては、学生向けのメッセージとあわせて、プログラム関係教員の氏名および所属を掲載し、連絡調整教員の可視化を図った。

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	1	2	5	4	5	5	5	5	5

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：筑波大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
グルノーブル・アルプ 大学	認定者数	B(大学院生)	4	5	8	10	10
	認定単位数	B(大学院生)	24	28	42	52	52
ボルドー大学	認定者数	B(大学院生)		1	3	5	5
	認定単位数	B(大学院生)		4	18	26	26
ルール大学ポーフム	認定者数	B(大学院生)		2	2	3	3
	認定単位数	B(大学院生)		12	12	18	18
ボン大学	認定者数	B(大学院生)			1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)			4	4	4
ルーヴェン・カトリッ ク大学	認定者数	B(大学院生)			1	3	3
	認定単位数	B(大学院生)			4	12	12
ユトレヒト大学	認定者数	B(大学院生)				1	1
	認定単位数	B(大学院生)				4	4
年度別認定者数合計			4	8	15	23	23
年度別認定単位数合計			24	44	80	116	116

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：筑波大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
グルノーブル・アルプ 大学	認定者数	B(大学院生)	3				
	認定単位数	B(大学院生)	17				
ボルドー大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
ルール大学ポーフム	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
ボン大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
ルーヴェン・カトリッ ク大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
ユトレヒト大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
年度別認定者数合計			3	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			17	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和6年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東京海洋大学			
主な交流先	デンマーク、ノルウェー			
事業名	【和文】	日・北欧連携国際協働教育「海洋の未来を創造する高度専門技術者」養成プログラム		
	【英文】	Japan-Nordic Collaborative Program of Marine Education toward the Innovation and Sustainability (METIS)		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	舞田 正志	(所属・職名) 理事・副学長 (研究・国際・学術情報担当)	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/metis/>

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

研究プロジェクト型インターンシップにて、ノルウェー科学技術大学へ2025年1月から2名、2月から1名の学生の実派遣を行った。

【特に優れた取組】

計画調査提出時は、交流期間30日以上～3か月未満の2名の派遣を予定していたが、研究プロジェクト型インターンシッププログラムにて3名の実派遣を実施し、当初計画人数を上回った。

これは、各参加大学との「海洋の未来を創造する高度専門技術者」養成プログラム運営チームのミーティングの実施を通じて、METISプログラム協定の締結を目指し枠組みを調整したこと、語学が堪能なコーディネーターによる日常的なサポートなどにより、スムーズな派遣の実現につながった。

また、研究プロジェクト型インターンシップであることから、METISワーキングにて研究実績を重視した選抜を行ったことにより、質の高い学生を派遣することができた。

さらに、派遣学生は、派遣前後にGPSアカデミックを受験し、自身のプログラムの前後のコンピテンシーを測りその経験による伸びを可視化し、本人へフィードバックするとともにMETISワーキングにて結果を共有することにより、プログラムの改善につながった。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

分野横断型・単位互換を伴う交換留学(CTEX)により、2024年10月からノルウェー科学技術大学の2名の学生受入を行った。

研究プロジェクト型インターンシップにて、2025年2月からスタバンゲル大学より1名の学生受入を行った。

【特に優れた取組】

計画調査提出時は、2024年度は受入の予定は無かったが、単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生を2名、交流期間30日以上3ヶ月未満の学生を1名受け入れたことから、当初計画人数を大幅に上回った。

各大学との「海洋の未来を創造する高度専門技術者」養成プログラム運営チームのミーティングを重ね、METISプログラム協定の締結を目指し枠組みを調整したこと、語学が堪能なコーディネーターによる日常的なサポートなどによりスムーズな受入実施につながった。

(2) 任意指標

① 本事業で設定している任意指標

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
多文化共生環境における アクティブラーニング授業教授法講座回数	1	1	1	1	1
講座の受講により授業スキルの改善が図られた 教員数	5	5	5	5	5
講座の終了教員による多文化共生環境におけるアク ティブラーニング授業への参加学生数	10	20	20	20	20
学内外におけるセミナー開催などの成果普及・発信	1	5	5	5	5

② 2024年度末における目標の達成状況

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
多文化共生環境における アクティブラーニング授業教授法講座回数	1				
講座の受講により授業スキルの改善が図られた 教員数	12				
講座の終了教員による多文化共生環境におけるアク ティブラーニング授業への参加学生数					
学内外におけるセミナー開催などの成果普及・発信	1				

③ 進捗状況のコメント

日本・北欧の専門家を招へいし、関係教職員を対象にその指導法及び質の保証に関する「METIS イベント・オンライン授業でのアクティブラーニング教授法ミニシンポジウム」を2025年3月18日にハイブリッドにて開催した。

当日の講演内容を取録し、オンデマンドで欠席した教職員が学習できるようMETISホームページに掲載予定である。

【特に優れた取組】

日本・北欧の専門家3名(関西大学・スタバンゲル大学・ノルウェー北極大学)を招へいし開催し、アクティブ・ラーニングの効果、方法、事例等を共有するなど、FDの一環として実施した。学生・教職員あわせ対面合わせ21名の参加があり、発表のみでなく実践的なグループワークも行った。また、本学のMETISプログラムが一大学の取組だけでなく、日本の大学の国際化を進める使命を持っていることを、改めて、本学関係者が認識する機会となった。参加教員は、本シンポジウムでの学びを活かして、2025年6月には、実際に北欧の協定校6大学と本学共催の1週間程度のオンライン型アクティブラーニングプログラム(ALC)を実施する。

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数			3	3	6	6	6	6	6	6

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京海洋大学】

相手大学名	学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
南デンマーク大学	認定者数		1	1	1	1
	認定単位数		10	10	10	10
デンマーク工科大学	認定者数			1	1	1
	認定単位数			10	10	10
ノルウェー 科学技術大学	認定者数		1	1	1	1
	認定単位数		10	10	10	10
ノルウェー北極大学	認定者数		1	1	1	1
	認定単位数		10	10	10	10
スタバングル大学	認定者数			1	1	1
	認定単位数			10	10	10
ノード大学	認定者数			1	1	1
	認定単位数			10	10	10
年度別認定者数合計		0	3	6	6	6
年度別認定単位数合計		0	30	60	60	60

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数										

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京海洋大学】

相手大学名	学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
南デンマーク大学	認定者数					
	認定単位数					
デンマーク工科大学	認定者数					
	認定単位数					
ノルウェー 科学技術大学	認定者数					
	認定単位数					
ノルウェー北極大学	認定者数					
	認定単位数					
スタバングル大学	認定者数					
	認定単位数					
ノード大学	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和6年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	金沢大学			
主な交流先	チェコ工科大学、レーゲンスブルク大学、カールスタード大学、アイントホーフェン工科大学			
事業名	【和文】	日本とEU諸国の先端科学の展開に向けた数物科学を牽引する人材育成プログラム		
	【英文】	Program for Human Resource Development Leading Mathematical and Physical Sciences for the Development of Advanced Science in Japan and EU Countries		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	長谷部 徳子	(所属・職名) 副学長（国際・ダイバーシティ推進担当）	
	(交替年月日)	2025年4月4日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://eutenkai.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

・本学教員および大学院生・学類4年生がチェコ工科大学に滞在し、研究交流を行った。参加した学生は、現地での国際ワークショップへの参加・研究発表、チェコ科学アカデミー訪問、CTUの生命科学実験室訪問、CTUの応用計算科学研究者との国際共同研究など、世界の第一線の研究者らと交流する機会も得て、多くの貴重な学術的な国際経験をした。今後もこのような取り組みをさらに発展させ、金沢大学の応用計算科学における教育・研究の国際化を推進する。

・交流相手大学として新たにスイスのパーゼル大学を追加することを予定している。パーゼル大学とは、修士課程学生の短期の交換留学の実施に向けて調整を進めている。
・2025年度中に、原子間力顕微鏡分野の世界的権威Franz Giessibl教授(レーゲンスブルク大学)を招へいし、レーゲンスブルク大学で修士課程の学生を対象に開講している講義の一部を実施いただくことを予定している。本特別講義は、学部3年生以上と大学院生が受講可能とし、大学院生は、レーゲンスブルク大学のナノサイエンス分野の講義を金沢にしながら受けること可能になる。2025年度にレーゲンスブルク大学に短期留学を予定している学生も受講を予定しており、実渡航の準備として位置付けている。また、学部3年生には難しい内容となるが、2027年度にDDPプログラムが開始される年に博士前期課程に入学する学年であり、DDPプログラムへの入学に向けての動機付けとして効果が見込まれる。

【特に優れた取組】

・事業のキックオフシンポジウムを開催した。交流相手校から教員と学生を招へいし、各大学の概要や研究、留学について講演いただいた。
本学学長・理事・副学長とも歓談の機会を持ち、両大学の今後の更なる協力関係について確認する良い機会となり、金沢大学から留学を考えている学生に対して強いメッセージを発信できた。

当日は70人が参加し、キックオフシンポジウムへの参加により交流プログラムに関心を持つ学生が増え、2025年度のプログラム参加につながった。

・アイントホーフェン工科大学のAnnika Bach助教による連続講義を実施した。数物科学専攻・数物科学類の学生が多数聴講し、議論を行った。特に、同氏のAmbrosio-Tortorelli汎函数の差分法に対する目覚ましい研究結果を紹介していただいたことは、本学学生にとって貴重な機会となった。

今後も大学院生の短期相互派遣・受入プログラムの実施に加えて、このような連続講義を企画することを予定している。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

・レーゲンスブルク大学とのDDP構築については、本学教員がレーゲンスブルク大学を訪問し調整を進めた。本学側4名の教員と、レーゲンスブルク大学側10名の教員が打合せを行い、コチュテル型DDPのために教員同士の共同研究レベルの交流を発展させる礎を築くことができた。

・2025年度はチェコ工科大学、アイントホーフェン工科大学、カールスタッド大学から学生を受け入れ、数物科学専攻の学生とともに、応用数学・産業数理に関する研究テーマについてともに学ぶことを予定している。これにより、数物科学専攻の教育の国際化、応用計算科学分野における国際的理数系人材の育成に寄与することが期待される。

【特に優れた取組】

・レーゲンスブルク大学との交流ミニキックオフイベントを学内で実施した。交換留学制度のもと、本学自然科学研究科数物科学専攻物理学コースに滞在していた学生(レーゲンスブルク大学物理学の大学院生)が、レーゲンスブルク大学修士課程の科目履修、学生生活などについて紹介し、本学教員、学生が参加した。

レーゲンスブルク大学への留学に関する期待の高さが伺えたとともに、留学を計画している学生にとっては事前準備をする上での貴重な機会となった。

・チェコ工科大学との間で、数学分野の博士前期課程および博士後期課程におけるDDPに関する協定をコチュテル型(単一論文型)に変更して締結した。これにより、今後の学生交流・研究交流の更なる活発化が期待される。

(2) 任意指標

① 本事業で設定している任意指標

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1) 本学の国際共著論文数の増加率	2%	4%	5%	5%	6%
(指標2) 本学の国際学会発表数の増加率	2%	4%	5%	5%	6%
(指標3) 本学の博士後期課程への進学率	9%	11%	13%	13%	14%
(指標4) 本学の欧州への派遣数の増加率	3%	5%	5%	6%	6%
(指標5) 本学の欧州からの受入数の増加率	3%	5%	6%	6%	7%

② 2024年度末における目標の達成状況

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1) 本学の国際共著論文数の増加率	15%				
(指標2) 本学の国際学会発表数の増加率	-10%				
(指標3) 本学の博士後期課程への進学率	10%				
(指標4) 本学の欧州への派遣数の増加率	4%				
(指標5) 本学の欧州からの受入数の増加率	17%				

③ 進捗状況のコメント

欧州との学生交流人数(派遣・受入)はコロナ禍前よりも増えており、今後も増加が見込まれる。

【特に優れた取組】

本学の博士後期課程への進学率については、2023年度は10.1%、2024年度は10.8%であった。金沢大学未来ビジョン『志』では3つの重点ミッションを掲げており、大学院の機能強化を図っている。その取り組みの中でもHaKaSe+では博士後期課程の学生への経済的支援等を行っており、博士後期課程への進学を確約する博士前期・修士課程学生をの予約採用も実施している。内部進学についても一定の効果が表れていると言える。

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	1	0	2	1	3	2	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：金沢大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			チェコ工科大学	認定者数	B(大学院生)	0	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	10	20	30	30
レーゲンスブルク大学	認定者数	B(大学院生)	0	0	1	2	2
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	8	16	16
カールスタード大学	認定者数	B(大学院生)	0	0	0	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0	8	8
年度別認定者数合計			0	1	3	6	6
年度別認定単位数合計			0	10	28	54	54

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
				認定者数		0	0
	認定単位数		0	0	0	0	0
	認定者数		0	0	0	0	0
	認定単位数		0	0	0	0	0
	認定者数		0	0	0	0	0
	認定単位数		0	0	0	0	0
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：金沢大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			チェコ工科大学	認定者数		0	
	認定単位数		0				
レーゲンスブルク大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
カールスタード大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
				認定者数			
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和6年度採択）

令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○豊橋技術科学大学、東京科学大学			
主な交流先	マドリード工科大学、トロワ工科大学、ウルム大学、シェフィールド大学			
事業名	【和文】	グリーンイノベーション社会を牽引するグローバル半導体人材育成プログラム		
	【英文】	Semiconductor Vanguard Driving Green Innovation Society		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	高橋一浩	(所属・職名) 電気・電子情報工学系 教授	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://ee.tut.ac.jp/gis/>

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

- ・本学は2024年度、新たにドイツのウルム大学及び英国のシェフィールド大学と協定を締結した。これにより、グリーントランスフォーメーション（GX）への関心が高く、半導体分野で世界トップレベルの研究力を有するEU連携4大学すべてとの協定を実現し、派遣・受入の体制を整えた。
- ・オンラインによる交流については、非同期型的手法も活用し、双方向の交流を確保して実施した。
- ・本学の学生1名を、2025年1月から2月の2か月間、マドリド工科大学に派遣（実渡航）した。

【特に優れた取組】

- ・派遣前に両大学間で打合せを重ね、事前合意に基づき学修内容を明確化した上で、両大学の強みを生かした形で派遣を実施した。その結果、派遣内容は大変充実したものとなった。マドリド工科大学に属する研究所（ISOM）での海外実務訓練では、シリコンガリウムを基盤上で成長させる研究を行い、一方、本学ではその素材を用いてデバイスを作製する研究を行った。マドリドでは素材、豊橋ではデバイスという形で補完性のある研究を行い、素材の作り方とその特性との関係を深く学ぶことができた。これにより、多様なニーズの中で課題を発見し解決する力を養い、国際的に通用する将来の技術者としての素養、グローバルなコミュニケーション能力、多文化的視点を培うとともに、将来のキャリア形成において貴重な経験となったとの報告があった。単なる派遣にとどまらず、内容・質ともに充実した成果が得られた。
- ・留学報告会を開催し、学部4年生111名を対象に派遣学生が留学の様子を報告した。この報告会を通じて、次年度以降の留学希望者から多くの質問が寄せられ、学生の留学に対する関心を高めることができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

- ・2024年度の入力はオンライン交流のみとした。欧州側からは13名の学生が参加し、日欧双方の研究室が研究室紹介ビデオを作成した。これにより、双方の研究の違いを学び、さらに自分の専門とは異なる分野についても学ぶ機会を得たことで、半導体に関連する研究への理解を深めることができ、内容の充実した交流となった。
- ・国内連携大学である東京科学大学とは、プログラム推進に向けて複数回の打合せを重ね、その結果、欧州からの留学生を東京科学大学で受け入れるための教務面の体制を構築した。

【特に優れた取組】

- ・トrow工科大学において、ヨーロッパ現地の学生を対象に本プログラムの説明会を開催し、40名の学生が参加した。説明会では、英語による授業内容、GPAなど応募条件、日本滞在中のインターンシップの可否などに関して活発な質疑応答が行われ、日本への留学に対する関心の高さがうかがえた。ヨーロッパ現地で本プログラムの説明会を開催できたことは、日欧双方の大学の教職員間の協力関係が強化された成果である。

(2) 任意指標

① 本事業で設定している任意指標

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
EU諸国の大学との交流協定数	13	15	15	15	15
連携企業数	0	5	5	5	5
国際連携授業数	7	8	9	10	10
(指標4)					
(指標5)					

② 2024年度末における目標の達成状況

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
EU諸国の大学との交流協定数	19				
連携企業数	0				
国際連携授業数	7				
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

- ・EU諸国の大学との交流協定数について、当初の予定どおり、ウルム大学（ドイツ）及びシェフィールド大学（英国）との協定を締結することができた。また、他のEU諸国の大学との協定締結も進み、結果として、19機関との協定が実現している。
- ・国際連携授業については、計画どおり、7科目の実施を行った。

【特に優れた取組】

- ・当初予定していたとおり、EUの連携大学である2大学（ウルム大学及びシェフィールド大学）と新たに協定を締結することができ、また、他のEU諸国の大学等との連携も推進することができた。

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：豊橋技術科学大学】

相手大学名	学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
マドリード工科大学、 トロワ工科大学、ウル ム大学、シェフィールド 大学	認定者数	B(大学院生)	0	5	5	5	5
	認定単位数	B(大学院生)	0	20	20	20	20
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	5	5	5	5
年度別認定単位数合計			0	20	20	20	20

2. 国内連携大学 【大学名：東京科学大学】

相手大学名	学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
マドリード工科大学、 トロワ工科大学、ウル ム大学、シェフィールド 大学	認定者数	B(大学院生)	0	0	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	4	4	4
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	1	1	1
年度別認定単位数合計			0	0	4	4	4

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：豊橋技術科学大学】

相手大学名	学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
マドリード工科大学、 トロワ工科大学、ウル ム大学、シェフィールド 大学	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：東京科学大学】

相手大学名	学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
マドリード工科大学、 トロワ工科大学、ウル ム大学、シェフィールド 大学	認定者数	B(大学院生)	0				
	認定単位数	B(大学院生)	0				
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和6年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	京都工芸繊維大学			
主な交流先	フランス、イタリア、スロベニア、スペイン、オランダ			
事業名	【和文】	3×3教育制度の活用によるグローバルな次世代マテリアル人材育成プログラム		
	【英文】	JoinTECH Laboratories for Smart Materials Leader Development		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	亀井 加恵子	(所属・職名) 副学長 (国際担当)	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1	トゥウェンテ大学	University of Twente	オランダ
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

https://www.kit.ac.jp/international_index/sekaitenkai/

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

・5つの海外相手大学に学生を派遣し、順調な滑り出しとなった。また、すべての海外相手大学に本学教員を派遣し、学生交流のための準備、打合せを行ったことで、現地でのスムーズな研究活動が可能となった。

【特に優れた取組】

- ・留学中の様子を撮影し、事業の広報動画に活用した。
- ・当初想定していた専攻以外の専攻からも応募者があり、派遣を実施することができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

・初年度は受入が目標数に1足りない結果となった。候補学生の調整が間に合わなかったことによるものではあるが、オンライン交流 (JoinTECH-Online) を通じてプログラムの普及を図り、関心を得ることはできており、来年度以降の達成に向けて鋭意協議を行っている。

【特に優れた取組】

- ・本事業で行うJoinTECH Laboratoryは本学と各海外相手大学との二者間交流であるが、海外相手大学同士の交流を促すため、オルレアン大学 (フランス) の教員・学生及びバレンシア大学 (スペイン) の教員の招へい時に、本学を含めた三者のセッションの機会を設けた。3大学の教員・学生が一同に会し、学生による研究活動の発表や教員からの大学紹介を行い、意見交換を行った。

(2) 任意指標

① 本事業で設定している任意指標

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
リーダー志向を有する学生の割合	70%	75%	80%	85%	90%
博士前期課程修了者の就職率			100%	100%	100%
博士後期課程の学生派遣数		1	2	4	5
博士後期課程の学生受入数	1	1	2	3	5
国際共著論文・国際学会発表数	10	12	18	20	25

② 2024年度末における目標の達成状況

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
リーダー志向を有する学生の割合	62.5%				
博士前期課程修了者の就職率	該当者なし				
博士後期課程の学生派遣数	0				
博士後期課程の学生受入数	1				
国際共著論文・国際学会発表数	16				

③ 進捗状況のコメント

・国際共著論文・国際学会発表数は大きく当初計画を上回ることができた。本事業を通じて、共同研究をベースにした大学間関係をより一層深化・拡大させることに寄与していると考えている。

・リーダー志向を有する学生の割合については、目標には到達しなかった。しかしながら、基準値を満たさなかった学生についてもほぼ水準に到達している者もいることから、概ねの目標は達成できたと考えている。今後は、留学成果をより詳細に把握するためにも、事前事後に測定することを予定している。

【特に優れた取組】

- ・派遣した学生のうち2名は博士後期課程進学後も引き続き海外相手大学との連携を踏まえた研究を考えており、共同研究の拡大が期待される。

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	4	2	5	5	5	5	5	5

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：京都工芸繊維大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			認定者数	B(大学院生)	0	2	2
オルレアン大学	認定者数	B(大学院生)	0	4	4	4	4
	認定単位数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
ウーディネ大学	認定者数	B(大学院生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
ベニス大学カ・フォスカリ校	認定者数	B(大学院生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
リュブリャナ大学	認定者数	B(大学院生)	0	0	2	2	2
	認定単位数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
バレンシア大学	認定者数	B(大学院生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	B(大学院生)	0	2	2	2	2
トゥウエンテ大学	認定者数	B(大学院生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計			0	5	6	6	6
年度別認定単位数合計			0	10	12	12	12

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：京都工芸繊維大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			認定者数		0		
オルレアン大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
ウーディネ大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
ベニス大学カ・フォスカリ校	認定者数		0				
	認定単位数		0				
リュブリャナ大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
バレンシア大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
トゥウエンテ大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和6年度採択）

令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	岡山大学			
主な交流先	ムルシア大学（スペイン）・トゥールーズ第3ポール・サバティエ大学（フランス）・ソルボンヌ大学（フランス）			
事業名	【和文】	生殖環境科学を通してWell-beingに寄与する日欧先駆人材育成プログラム		
	【英文】	EU-Japan Practical Leadership Program for Well-being through Reproductive and Environmental Sciences		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	鈴木 孝義	(所属・職名) 副学長（国際・同窓会担当）	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.eu-rec.elst.okayama-u.ac.jp/>

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2024年度の派遣については、自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生を15人、実渡航とオンライン受講を行う学生を6人を計画していた。実績結果として、事業採択後の開始であったため、オンライン受講生、実渡航とオンライン受講を行う学生2名を相手大学のスペイン・ムルシア大学に派遣（交流期間3か月）した。自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生は派遣（日本）が2名、受入（スペイン）が3名であった。事業採択後すぐにアナウンスを行ったが十分な理解が得られておらず履修生が限定的となってしまった。今後は、国際教育・交流プログラムについて各研究科に改めて広く周知するとともに学生募集時期の明確化や広報活動の強化を行い、多くの学生に参加してもらえるようプログラムの実施に工夫・改善を行う。

【特に優れた取組】

派遣学生の学生募集要項を改訂し、年3回の応募機会を設け、学生の様々なニーズに対応した。プログラム実施委員会を組織し、プログラムの実施内容、学生募集が実施研究科に素早く確実に周知されるよう工夫した。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年度の受入については、自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生を15人、実渡航とオンライン受講を行う学生を6人を計画していた。実績結果として、事業採択後の開始であったため、スペイン・ムルシア大学から2名、フランス・トゥールーズ大学から1名、フランス・ソルボンヌ大学から1名の計4名（4名とも実渡航とオンライン受講を行う学生、交流期間3か月以上）を受け入れた。自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生の受入（スペイン）が3名、派遣（日本）が2名であった。事業採択後すぐにアナウンスを行ったが十分な理解が得られておらず履修生が限定的となってしまった。今後は、国際教育・交流プログラムについてカウンターパート大学内でも改めて広く周知していただくように依頼し、多くの学生に参加してもらえるようプログラムの実施に工夫・改善を行う。

【特に優れた取組】

海外連携大学からのプログラム参加者を増加させるため、プログラムの周知を目的とした活動とともに、オンラインで行った講義に欧州連携大学からも講師を派遣いただき、より多くの協定校教員にも本プログラムをアピールした。

(2) 任意指標

① 本事業で設定している任意指標

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1) COIL 実施科目数	1	3	3	3	2
(指標2) 国際共創特別研究を実施するカウンターパート大学数	3	3	3	3	3
(指標3) DDP 履修日本人学生数	0	0	2	4	5
(指標4) JV-Campus で公開するCOIL コンテンツ数	1	3	3	3	2
(指標5) 国際共創特別研究実施に伴う日欧共同研究数	3	5	5	5	5
(指標6) 日欧国際共著論文数	0	1	2	2	2

② 2024年度末における目標の達成状況

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1) COIL 実施科目数	1				
(指標2) 国際共創特別研究を実施するカウンターパート大学数	3				
(指標3) DDP 履修日本人学生数	0				
(指標4) JV-Campus で公開するCOIL コンテンツ数	3				
(指標5) 国際共創特別研究実施に伴う日欧共同研究数	3				
(指標6) 日欧国際共著論文数	0				

③ 進捗状況のコメント

2024年度はCOIL実施科目1件を計画しており、計画通りCOIL実施科目の「生殖環境科学入門」を行なった。JV-Campusで公開するコンテンツ数は1件を計画していたが、結果としては3件のコンテンツ数を公開することができた。

【特に優れた取組】

特になし

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数					3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：岡山大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			認定者数	B(大学院生)			3
ムルシア大学	認定者数	B(大学院生)			10	10	10
	認定単位数	B(大学院生)			10	10	10
トゥールーズ第3ポ ール・サバティエ大学	認定者数	B(大学院生)			2	3	2
	認定単位数	B(大学院生)			10	10	10
ソルボンヌ大学	認定者数	B(大学院生)			3	2	3
	認定単位数	B(大学院生)			10	10	10
年度別認定者数合計			0	0	8	8	8
年度別認定単位数合計			0	0	30	30	30

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数										

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：岡山大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			認定者数	B(大学院生)			
ムルシア大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
トゥールーズ第3ポ ール・サバティエ大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
ソルボンヌ大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和6年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	広島大学			
主な交流先	イタリア、オーストリア、スウェーデン、スペイン、ドイツ			
事業名	【和文】	日・欧州の海洋経済安全保障と持続可能性を支えるAI次世代人材育成プログラム		
	【英文】	Training program for Next Generation Leaders in AI in Maritime Economic Security and Sustainability (Japan-Europe)		
事業責任者 <small>※交替年月日は変更があった場合のみ記入</small>	(氏名)	金子 慎治	(所属・職名) 理事・副学長(グローバル化担当)	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 <small>※追加調査を提出した大学のみ記入</small>	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

日本語版： <https://iuep.hiroshima-u.ac.jp/eu/>
 英語版： <https://iuep.hiroshima-u.ac.jp/eu/en/>

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2024年度の交流(派遣)はオンラインセミナー形式で実施し、広報の工夫により学部生を含む14名から応募があり、最終的に12名が参加して、目標人数を概ね達成した。海洋・海事分野を専攻する大学院生だけでなく、他分野の大学院生、専門外の学部生にも関心を持ってもらえるよう、今後も内容に関する協議を重ね、より多様な学生が参加したいと思えるような魅力あるプログラムの構築を目指す。

【特に優れた取組】

事前・事後を通じたJVキャンパスの活用により、学生にとってJVキャンパスが身近な学習基盤として定着するきっかけとなった。また、参加後アンケートの実施により、知識の習得や留学意欲の向上といった学修効果が明確になるとともに、グループディスカッションにおけるファシリテーションの難しさといった課題も把握でき、今後の改善に向けた示唆を得ることができた。さらに、学修成果の可視化を目的にデジタルバッジを発行したことは、学生の学修意欲を高めるとともに、プログラムの付加価値向上にもつながる有意義な取組となった。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年度の交流(受入)はオンラインセミナー形式で実施し、連携する5大学すべてからの参加を得て、当初の目標を上回る16名の学生が参加した。学生間のグループディスカッションや共同課題を通じて活発な意見交換が行われ、国際的な学術交流の場として有意義な機会となった。さらに、JVキャンパスの活用により、連携大学の学生に対して新たな教育資源を提供するモデルを示すことができた。

2025年度以降は、オンラインセミナーに加え、セメスター留学での受入も予定しており、これらに向けた受入体制および環境整備を進めていく予定である。

【特に優れた取組】

5大学すべてからの参加を実現し、かつ10名という当初の目標を大きく上回る16名の学生を受け入れることができた。また、紙の修了証書に代えてデジタルバッジを発行することで、原本の郵送を不要とし、修了証の迅速かつ確実な提供が可能となった。これにより、学生自身も修了実績をオンライン上で手軽に活用できるようになり、利便性と汎用性の高い仕組みを構築することができた。

(2) 任意指標

① 本事業で設定している任意指標

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1) 国際共同学位プログラム協定の新規締結数	0	0	0	1	1
(指標2) 本事業に参画する大学との間の研究ワークショップの開催数	0	1	1	2	2
(指標3) 本事業に参画する大学間で実施するFD/SDの実施回数	0	1	1	2	2
(指標4) デジタルバッジの発行数(延べ数)	80	100	120	140	160

② 2024年度末における目標の達成状況

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1) 国際共同学位プログラム協定の新規締結数	0				
(指標2) 本事業に参画する大学との間の研究ワークショップの開催数	2				
(指標3) 本事業に参画する大学間で実施するFD/SDの実施回数	3				
(指標4) デジタルバッジの発行数(延べ数)	302				

③ 進捗状況のコメント

(指標1) 国際共同学位プログラム協定の新規締結

既存のJDプログラムの分野拡大を目指し、海外連携大学との協議を開始した。さらに2025年度には、参画する分野・プログラムの拡充を図るべく、全学的な取組として各研究科への説明を行い、構築を進めている。

(指標2) 研究ワークショップの実施

2025年2月13日にはベニス大学において研究ワークショップを開催し、同大学環境科学・情報・統計学部の教員5名による研究発表を行った。また、2025年3月10日には本学において、ベニス大学、バスク大学、ライブツィヒ大学及び世界海事大学の教員を迎え、研究ワークショップを実施した。本学教員2名による研究発表に加え、実験施設の視察も行った。また、研究発表会を契機としてベニス大学との共同研究が開始されるなど、実質的な成果も生まれている。さらに2025年度には、世界海事大学から教員を1か月間受け入れ、共同研究を進展させる予定である。

(指標3) FD/SDの実施

2025年2月7日には本学の実施部会教員と、同年3月10日には海外連携4大学と、それぞれJD/DDに関する情報提供と意見交換を実施した。さらに、2025年3月25～26日には、本事業責任者である理事・副学長が関連教職員とともに、JDプログラムのコンソーシアム(グラーツ大学)に出席し、質保証や課題等について詳細な協議を行った。協議内容は全学に共有し、全学規模での展開・拡大に向けた取組を進めている。

(指標4) デジタルバッジの発行

本事業において28個を発行したほか、他の展開力強化事業(アメリカ及びインド太平洋地域)における各種プログラム(COIL型共同学習、短期派遣、サマープログラム、インターンシップ)や、本学で実施しているサマープログラム(Peace Study Tour)を通じ、延べ302個のデジタルバッジを発行した。

また、全学的な導入に向けた検討も開始している。

【特に優れた取組】

海外の連携大学とは、学生交流に加え、全体的および個別の研究交流も積極的に展開している。副理事以上の役職者が各連携大学を訪問し、学長・副学長など各大学のシニアマネジメントと面会した。その結果、本事業における協力関係を強化するとともに、ソーシャル・インパクト創生事業など本学で実施している他の取組とも連携し、今後の具体的な協力について合意に至った。

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	5	5	5	5	5	5	5	5

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 広島大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			ベニス大学	認定者数	B(大学院生)	0	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	8	8	8	8
グラーツ大学	認定者数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	8	8	8	8
世界海事大学	認定者数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	8	8	8	8
バスク大学	認定者数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	8	8	8	8
ライプツィヒ大学	認定者数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	8	8	8	8
年度別認定者数合計			0	5	5	5	5
年度別認定単位数合計			0	40	40	40	40

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
				認定者数			
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名： 広島大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			ベニス大学	認定者数		0	
	認定単位数		0				
グラーツ大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
世界海事大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
バスク大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
ライプツィヒ大学	認定者数		0				
	認定単位数		0				
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
				認定者数			
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和6年度採択）

令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	慶應義塾大学			
主な交流先	フランス、ドイツ、イタリア、ポーランド、ベルギー、スウェーデン他			
事業名	【和文】	日欧が相補的に提供するLearning Agreement型国際共同学位プログラム		
	【英文】	Japan-Europe Complementary Learning Agreement-based Joint Master's Program		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	竹村 研治郎	(所属・職名) 慶應義塾大学理工学部・教授	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

--

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

派遣人数は計画を上回る実績となった。主な要因は、特別留学奨励金を設定し、エンカレッジプログラムを公募したことで参加希望者が増加した点である。特にアーヘン工科大学で実施のKeio-Aachenスプリングスクールは、円安・物価高によるプログラム費高騰の影響で直近数年間は最低催行人数を下回り、事業申請時（2024年5月）には2025年2月の開催が未定であった。しかし、本事業採択により特別留学奨励金を新設した結果、参加希望者は過去3年平均の2.4倍となる25名に増加し、派遣総数全体の増加につながった。

【特に優れた取組】

特別留学奨励金の新設により参加希望者が増加し、Keio-Aachenスプリングスクールでは過去3年平均の2.4倍となる25名の応募を得た。円安・物価高で開催困難だったプログラムの継続が実現し、派遣人数全体も計画を上回る成果を達成した。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

受入人数は計画を下回ったものの、特定の要因によるものではなく、協定校からのダブルディグリープログラム受入数は年ごとの変動によるものと考えられる。なお、2025年度は計画を上回る受入が既に決定している。今後も協定校との連携を強化し、安定的な受入数の確保に努める。

【特に優れた取組】

協定校関係者との双方向訪問や年次会議への参加を通じて、プログラム運営に関する継続的な協議を行っている。顔の見える関係を維持することで相互の信頼を醸成し、必要な対応を双方で適切に実施でき、結果としてプログラムの質保証に貢献している。今後もこの関係性をさらに強化し、プログラム改善に資する新たな協力体制の構築を目指す。

(2) 任意指標

① 本事業で設定している任意指標

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2024年度末における目標の達成状況

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：慶應義塾大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			DDパートナー校のいずれか	認定者数	B(大学院生)	10	10
	認定単位数	B(大学院生)	40	40	40	60	80
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			10	10	10	15	20
年度別認定単位数合計			40	40	40	60	80

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	3	14								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：慶應義塾大学】

相手大学名		学生別	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			アーヘン工科大学	認定者数	A(学部生)	15	
	認定単位数	A(学部生)	30				
エコールサントラルナント	認定者数	A(学部生)	3				
	認定単位数	A(学部生)	12				
淡江大学	認定者数	A(学部生)	16				
	認定単位数	A(学部生)	16				
年度別認定者数合計			34		0	0	0
年度別認定単位数合計			58		0	0	0